

令和2年度「ICTを活用した医療介護連携モデル事業」内で、ICTの活用状況等の調査に以下のような質問事項を用意し、各地区医師会から多職種連携タイムラインの改善点等についてご回答をいただいております。参考に共有いたします。（回答いただいた医師会…16医師会）

<b>【質問】</b> ○10月にリリースを予定している東京都多職種連携ポータルサイト（多職種連携タイムライン）について、利用してみた「感想」「良かった点」「悪かった点」「改善点」を執筆ください。 ○特に「改善点」については、今後のシステムの改良や、システム周知等にあって参考とさせていただきたいため、なるべく具体的に執筆くださいますようお願いいたします。
--

【回答（感想、よかった点）】		
地区	感想	良かった点
足立区	医療機関へ当システムのインストールを支援していく中、IT・情報リテラシー教育の課題を感じました。システム担当も兼務している立場上、医療介護従事者にわかりやすく説明する必要がある一方で、我々もしっかりと理解した上で関わっていく必要があると考えます。 <b>対象レベル別（初心者従事者向け、ICT導入担当向け等）の研修会等も開催されると良い</b> と思います。	・ポータルサイトの画面は現在使用しているカナミックと画面が似ているので慣れた感じがする。 ・カナミックを使用していた中で、例えば「ベッド・マットレスの交換のタイミングなど、日常にある事もタイムリーに共有できて対応がスムーズに進む」などがあり、ポータルサイトにおいてもタイムライン表示は有効に活用できそうである。
豊島区		前述の通り、導入までが容易である点は良いと思う。慣れていない場合には設定に戸惑うこともありうるが、マニュアル通りで問題ないと思われる。 比較的速やかに通知があること、書き込み内容の最初の部分が見えることなども良いと思われる。
板橋区		ICTを用いて多職種で一つの情報を共有できるシステムは必ず効率化につながると思います。
西多摩	単なる退院支援のツールに止まらず、地域医療構想で求められる各病床機能、介護施設でのリハビリ・ショートステイ・入所機能、居宅支援事業所機能から成る、地域の「循環型療養基盤」の具体像を想起し、タイムラインなどによるリアルかつ円滑な情報活用から、在宅療養を支える協働の重要性を喚起する啓発ツールとして、有効な役割を発揮すると期待しています。	MCSを利用して医療圏内での病院、施設、在宅事業所との連携を深めているが、既に他システムが稼働している他医療圏の事業所との情報共有に、システムの垣根を越えた連携が可能となる、 <b>本多職種連携ポータルに将来性を感じています。</b> また、新型コロナウイルス感染者を在宅往診医から受け入れる際や、基幹病院からの退院患者を他医療圏の在宅へ戻しフォローアップを行う際にも、多職種への有効な情報共有ツールになり得ると思いました。
八王子市	いままでバラバラだった情報が一元管理できる点が非常に良い 患者リストを作成した人が連携の登録を行わないといけないことを忘れていて最初戸惑ったがそれ以外は問題なく利用できた。	

【回答（悪かった点、改善点）】		
地区	悪かった点	改善点
板橋区	一部のベンダーでは、登録するのに時間がかかったりして、スムーズな連携開始ができなかった。今後改善に期待したい。	現在、地域医療において大きな問題となっている一つに、急性期疾患による中核病院入院から後方病院へ転院するとかかりつけ医（主治医）への情報、連絡がなくなり、主治医が在宅医療を行っていても、情報不足から全く知らない医療機関へ紹介されてしまうことがある。この場合、患者や家族の意思を確認し、主治医に戻るケースも多く、この時点で多くの無駄な関係者及び作業が生じている。そこで、この <b>東京都多職種連携ポータルサイトで元々の主治医の情報及び情報共有が可能となれば、多くの患者さんや開業医にとって大変有意義なサイトとなる</b> ことが予測される。是非、新たな機能としてご検討いただきたい。
西多摩	証明書のインストールやブラウザでの閲覧など、セキュリティを担保しなくてはならない点は理解できますが、それに伴うレスポンスの低下や入口の煩わしさが気になる。 <b>スマホ時代なので、アプリで見ることができたほうが良いのではないのでしょうか</b>	多数の異なるシステムをまとめることは重要であり、本多職種連携ポータルサイトのめざす方向性にはとても共感が持てます。 <b>今後は、セキュリティを担保しながら、いかに簡単にアクセスできるかという相反する課題の改善が望まれます。</b> スマホ時代に合わせ、利用者が意識せずに利用できる <b>専用アプリの開発</b> が望まれるのではないのでしょうか。
八王子市	<b>今後も八王子では複数の多職種連携システムを利用するような事業所は大きく増えることはない</b> と考える。東京都多職種連携ポータルサイトを広めるためには、 <b>それ以外の付加価値を付ける必要がある</b> と考える。 同時期に、「 <b>コロナ・インフルエンザWEB</b> 」がリリースされたが、このようなシステムと連携していけば利用頻度が増えるのではないかと。その他にも、 <b>おくすり手帳や健診情報との連携</b> が出来れば良いと考える。	
足立区	・MCSのように簡単に操作できると良い。 ・地区医師会単位のポータル機能の併設提案 地区医師会から会員医療機関を含めた多職種への情報連携を考えると <b>地区医師会単位のポータル機能が併設されていることが望ましいのではと考えます</b> 。現在多くの事業でシステムやサイトが乱立している中、物理的に横の連携を図る事については課題が多いと予見できますが、縦の連携については、今回の多職種の分野からでも一元化は可能ではないかと考えます。「 <b>東京都多職種連携ポータルサイトにログインすれば多職種連携については都単位の事から地区の事まで容易に把握できる</b> 」ということが実現できると良いのではとイメージします。	・タイムラインが更新された際に、「設定された端末へのメール通知、携帯・iPadなどのアプリでのプッシュ表示」など、通知機能があると良い。 ・個人情報の範囲はルール決めが必要であるが、患者を含む・外すことのできる機能などが、ポータルサイトにもあったら良い。 ・携帯アプリ画面のように携帯版があると良い。 ・ポータルサイトの具体的な活用イメージが、よりわかり易いと良いのではと感じました。例えば貴施設内などで簡単にブースを設けて頂き体験ができる、などです。コロナ禍の中現状難しいかと思いますが、動画配信の併用など含め今後試みて頂けましたらより勧め易くなるかと考えます。

豊島区		<p>多職種連携タイムラインの機能としては、複数の多職種連携システムを利用して初めて有用性の高さがわかるのではないと思う。現状では医師会単位で多職種連携システムを導入しているので、なかなか医師会員としてはメリットを享受しにくいかもしれない。現状であれば複数の区にまたがって在宅医療を行っている医師や看護師などにとって有用かもしれない。</p> <p>多職種連携ポータルサイトには転院支援システム(病病連携)があるが、<b>今後は多職種連携タイムライン(在宅連携)との間をつなげるような病診連携に関するシステムもあると良いと思われる。</b></p> <p>最近では病診連携に多職種連携システムを用いる病院も増えてきている(まだまだ少ないが)。こういったところをうまくつなげられるようになると有用性が高まるのではないかと考える。</p> <p>また、<b>多職種連携システムには患者や家族が参加できるものもある。患者・家族側からすると、例えばLINEのようなものに書き込めば、我々多職種が情報共有できるようになる・・・といったシステムも有用になるのかもしれない</b>(昨今のセキュリティに関する問題はあるが・・・)。</p> <p>今後は「<b>病診連携</b>」と「<b>患者と医療者の連携</b>」がテーマになってくるような印象を受けている。</p> <p>また、さまざまな団体からの通知機能が充実してくるとより使いやすくなるのではないだろうか。たとえば(せっかく都で作っている)各市区町村に通知システムとして利用してもらい、地域の在宅医療・介護に係る多職種がこのシステムを利用することをきっかけに、多職種連携システムの利用促進にむすびつければ良いのではないだろうか。</p>
-----	--	--

【回答（利用なし）】

浅草	※ <b>台東区の周辺の地域は、「MCS」ばかり</b> なので、今のところは、多職種連携タイムラインの必要性や有用性を感じる場面は、残念ながらあまりありません。
新宿区	<p>東京都多職種連携タイムラインにつき、何度か説明を受け内容は理解しました。新宿区で採用したバイタルリンクにも対応を進めております。患者からの同意を得て、画面にある東京都多職種連携タイムラインでの共有ボタンをクリックすれば、簡単に連携ができるように設計されています。</p> <p><b>実際に東京都多職種連携タイムラインで連携しているケースは、現時点ではありません。当院で連携する場合は、新宿区内にある既知の多職種が多く、ひとつのICT連携で完結してしまうためです。</b> 区をまたいだり、広範囲に連携する在宅専門診療所であれば、1人の患者に対し2つのICT連携システムを混在して使用する場合もあるかもしれません。そのような場合には東京都多職種連携タイムラインの利用が必要と思います。</p> <p>また、病院とのICT連携はハードルが高いのが現状ですが、東京都多職種連携タイムラインを使用することにより、その壁を越えることができれば大きな利用価値が生まれます。</p> <p>今後、在宅医療にICT連携を用いる中で、東京都多職種連携タイムラインの意義について検討していきたいと存じます。</p>
品川区	利用していない
北区	登録マニュアルもわかりやすく、手間をかけずにすぐに登録できた。
豊島区	実際に登録して使えるようになるまでにはさほど問題もなく、導入は容易であったと思われる。
昭島市	未実施のため記載不可能
調布市	関係者に利用したことがあるか確認しましたが、 <b>近隣の市区町村がMCSを利用</b> していることから、利用する機会がほとんど無いとの事でした。
武蔵野市	連携職種の利用が <b>MCSのみ</b> であるので、利用した経験がない。
西東京市	<p>利用を試みたが<b>他業務で多忙</b>中、<b>登録やシステム導入に手間がかかる</b>為、現状利用していない。</p> <p>その為、良かった点、悪かった点を挙げるのは難しい。</p> <p>患者情報を管理する関係上、簡単に登録という事は難しいと思うが、実際に利用するまでの流れがもっと簡潔であれば大変有り難いです。</p>
東久留米市	東久留米市及び北多摩北部保険医療圏では、ICTを活用した患者情報システムは情報システムを活用していない <b>2市を除いて全てMCSを活用している</b> ため、現在のところ東京都多職種連携ポータルサイト「多職種連携タイムライン」を活用する機会がないため、利用していない。
小金井市	東京都多職種連携ポータルサイトへ登録はしたが、現状近隣市は <b>ほぼMCS</b> を導入しており他システムとの連動の必要性が今のところ感じられない。
八王子市	<p>現在八王子市内では複数の多職種連携システムを利用中の事業所はほとんどない。基本的には<b>1つの多職種連携システムで完結</b>してしまっているため、<b>東京都多職種連携ポータルサイトの導入はほとんど進んでいない。</b></p> <p>ログイン方法や操作は非常に容易であるが、現行の多職種連携システム起動前に東京都多職種連携ポータルサイトの起動するため、やはりひと手間増えてしまう。1つの多職種連携システムで完結してしまっている医療機関へは、お知らせ機能だけではメリットを見いだせず、積極的に導入を進めることができない</p>